高校公民プリント（過去問類似）
青年期と現代社会 No.2

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／9

問1 乳幼児期に見られる、自分と他者の視点を区別できない認知の状態から脱し、自分とは異なる多様な視点から客観的に物事を捉えられるようになる発達の過程を「脱中心化」と名付けた、スイスの心理学者は誰か。（2024年　全国公立入試　類似）

1. スキナー　**2.** ピアジェ　**3.** ワトソン　**4.** フロイト

問2 障害のある人もない人も、互いに区別されることなく、地域社会の中で共に普通の生活を送ることが本来の望ましい社会のあり方であるとする、現代の社会福祉や人権保障における基本理念を何というか。（2022年　全国公立入試　類似）

1. インクルージョン　**2.** ノーマライゼーション　**3.** メインストリーミング　**4.** ナショナルミニマム

問3 個人の記憶は、孤立して存在するのではなく、家族や地域、宗教団体といった共同体の他者との相互作用や、社会的な枠組みに依存して再構成されるものであると主張し、共同体における記憶の共有の重要性を唱えたフランスの社会学者は誰か。（2025年　全国公立入試　類似）

1. ホルクハイマー　**2.** ボードリヤール　**3.** ガーフィンケル　**4.** アルヴァックス

問4 現代社会における福祉や支援の現場では、本人の意思を無視した過剰な介入を避けつつ、社会的な排除を防ぐことが求められる。この議論の背景には、他者とのつながりを失って社会から排除される状態と、自己との対話のために自発的に社会から一歩退く状態を区別する視点がある。このように、全体主義の分析を通じて、他者と協働できない「孤立」と、自己の内省の営みである「孤独」を区別し、個人の尊厳や複数性の重要性を説いた、20世紀の政治哲学者は誰か。（2023年　全国公立入試　類似）

1. カール・シュミット　**2.** ジョン・ロールズ　**3.** ロバート・ノージック　**4.** ハンナ・アーレント

問5 西洋の近代社会を頂点とする進歩史観や自文化中心主義（エスノセントリズム）を批判し、すべての文化はそれぞれの環境に適応して歴史的に形成されたものであり、独自の価値を有するため、文化の間に優劣や高低は存在しないとする、レヴィ＝ストロースらによって提唱された考え方を何というか。（2025年　全国公立入試　類似）

1. 自由至上主義　**2.** 自民族中心主義　**3.** 文化相対主義　**4.** 文化帝国主義

問6 現代の大衆社会において、人々は内面的な信念や伝統に従うのではなく、周囲の期待やマスコミの動向に敏感に反応し、他者に合わせようとする傾向が強まるとされる。このような性格類型を「他人指向型（他人決定型）」と呼び、互いに関わりを持ちながらも孤立している現代人を「孤独な群衆」と名付けたアメリカの社会学者は誰か。（2023年　全国公立入試　類似）

1. テンニース　**2.** リースマン　**3.** マルクーゼ　**4.** ヴェーバー

問7 「すべての生きようとするものを神聖なものとして敬い、これを維持し、促進することが善であり、これを破壊し、阻害することは悪である」と考え、アフリカのガボンで医療と布教活動に生涯を捧げたドイツ出身の医師・神学者が提唱した、倫理的実践の基本思想を何というか。（2014年　全国公立入試　類似）

1. 他者への責任　**2.** 生命への畏敬　**3.** 未来への責任　**4.** 自然との共生

問8 現代社会において、他者とのつながりを失い、自ら望まずに社会から取り残される「孤立」は解決すべき課題とされる。一方で、自ら望んで社会から一歩引き、自己と向き合って思考を深める「孤独」は、個人の精神的成長にとって有意義な営みとされる。このように、世俗的な集団から離れ、主体的に自己のあり方を問い直す態度は、近代の思想家にも見られる。客観的な真理ではなく「私にとっての真理」を求め、既成の教会や大衆のあり方を批判して、神の前に主体的に立つ個人のあり方を何と呼ぶか。（2023年　全国公立入試　類似）

1. 主体性　**2.** 包括者　**3.** 普遍者　**4.** 単独者

問9 青年期において、アイデンティティ（自己同一性）の確立に悩む中で、学業や就職といった本来果たすべき社会的役割に対して一時的に無気力や無関心になり、何事にも意欲がわかなくなる状態を何というか。（2009年　全国公立入試　類似）

1. アパシー　**2.** トラウマ　**3.** ジレンマ　**4.** ペルソナ

答え合わせ・解説 No.2

問1	**答え 2** **ピアジェ**	スイスの心理学者であるピアジェは、子どもの認知発達において、初期の自己中心的な見方から脱却し、他者の視点や客観的な視点から物事を多角的に捉えられるようになることを「脱中心化」と呼んだ。これに対し、クーリーは「鏡に映った自己」、ハヴィガーストは「発達課題」を提唱したことで知られる。
問2	**答え 2** **ノーマライゼーション**	1950年代にデンマークのバンク＝ミケルセンらによって提唱された理念であり、障害者や高齢者を特別視して隔離するのではなく、社会全体で包み込んでいくという社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）や多様性の尊重の動きと深く結びついている。
問3	**答え 4** **アルヴァックス**	個人の記憶が社会的な枠組みの中で形成・再構成されるとする「集団的記憶」の概念を提唱したのは、フランスの社会学者アルヴァックスである。彼は、過去を思い出す行為が所属する集団の他者や社会的な枠組みに依存していることを明らかにし、個人の心理的プロセスと社会構造の結びつきを論じた。
問4	**答え 4** **ハンナ・アーレント**	全体主義の台頭を分析した人物であり、他者との関係性を失った「孤立」が全体主義を支える大衆を生み出すと警告した。その一方で、自分自身と対話する内省的な状態である「孤独」は、人間が批判的思考を維持するために不可欠なものであると位置づけた。この思想は、現代の高齢者支援などにおいて、本人の「一人でいたい」という意思（孤独）を尊重しつつ、社会的な排除や尊厳の喪失（孤立）を防ぐための介入を行うという、支援のあり方を理論的に支えている。
問5	**答え 3** **文化相対主義**	各文化が独自の歴史や環境の中で形成された固有の価値を持つため、他者の文化を自らの基準で評価し優劣を競うべきではないとする考え方である。これにより、西洋中心的な進歩史観や自文化中心主義が批判され、異文化をその文脈において理解することの重要性が示された。
問6	**答え 2** **リースマン**	『孤独な群衆』の著者である。彼は、歴史的な社会の変遷に伴って人間の性格類型が「伝統指向型」から「内部指向型」、そして現代大衆社会における「他人指向型」へと変化したと分析した。他人指向型の人間は、周囲の動向やマスコミのメッセージに敏感に同調することで、内面的な孤独感を和らげようとする特徴を持つ。
問7	**答え 2** **生命への畏敬**	ドイツ出身の医師・神学者であるシュヴァイツァーは、キリスト教の人道主義に基づき、アフリカのランバレーネで医療と布教活動を行った。彼は、自己の生命だけでなく他者の生命、さらにはすべての生命を尊び、生かそうとすることを善とする「生命への畏敬」を提唱し、生命の尊厳を倫理の根本に据えた。
問8	**答え 4** **単独者**	自ら望まずに社会から取り残される「孤立」とは異なり、自ら望んで自己と向き合う「孤独」は、主体性の確立において重要な意味を持つ。19世紀のデンマークの哲学者キルケゴールは、大衆の中に埋没して主体性を失った現代人を批判し、客観的な知識ではなく「私にとっての真理」を求めて、神の前に一人で立つ主体的な個人を「単独者」と呼んだ。これは、孤独を通じて自己の存在を深く見つめ直す実存主義の先駆的な思想である。
問9	**答え 1** **アパシー**	青年期において、自己のあり方に悩み、アイデンティティの確立に失敗したり、社会的役割の獲得に困難を感じたりした結果、学業や就職などの本来取り組むべき活動に対して無気力・無関心になり、意欲を失ってしまう状態をアパシー（またはスチューデント・アパシー）と呼ぶ。これは、特定の役割からの心理的な退却を示す現象である。